

役職等	団体等	役職	氏名
委員長	瀬戸市	市長	川本 雅之
副委員長	瀬戸市	副市長	大森 雅之
委員	瀬戸市歴史文化基本構想策定委員会	元委員長	青山 一郎
委員	瀬戸市教育委員会	教育長	加藤 正彦
委員	愛知県陶磁美術館	館長	佐藤 一信
委員	愛知県立芸術大学美術学部	教授	長井 千春
委員	せとモノがたりの会	会長	丹羽 蒼
委員	瀬戸市歴史民俗資料館	元館長	山川 一年
委員	陶磁史篇七部会	部会長	未定
委員	陶磁史篇八部会	部会長	未定

※五十音順

事務局 地域振興部文化課

1 現在までの瀬戸市史編さん状況

昭和28年に発足した瀬戸市史編さん事業準備委員会から瀬戸市史編さん事業が開始され、平成21年の『瀬戸市史 通史編 下巻』の発刊をもって終了となっている。その約60年にも及ぶ編纂過程においては、編纂体制の大きな改編や中断などがあり、瀬戸市史発刊の歴史が書けるというくらい波乱万丈に満ちた編纂であった。

その中で、『陶磁史篇一～六』、『通史編上・下』、『民俗』、『資料編一～六』、『近世文書集第一集～第七集』、『民俗調査報告書一～四』、『近世の瀬戸』の合計27冊を刊行し、世界を代表する窯業地・瀬戸の歴史を明らかにしてきた。

2 瀬戸市史発刊状況

年	タイトル	内容
1967	瀬戸市史陶磁史篇第三巻	瀬戸の染付焼について周辺人物も交えて解説
1969	瀬戸市史陶磁史篇第一巻	上代から中世の陶磁史について、東海地方の歴史も明らかにしながら解説
1981	瀬戸市史陶磁史篇第二巻	窯の変遷について、科学的見解も交えて解説。また陶祖藤四郎に関する史料も同時掲載
1985	瀬戸市史資料編1 絵図	江戸時代の18箇村の絵図と解説資料
1986	瀬戸市史資料編2 自然	地質・植物・動物に分け解説。付図として地質図を収録
1991	瀬戸市近世文書集2	瀬戸村窯屋文書のうち、加藤円六氏、加藤鉄夫氏、加藤一満氏の所蔵文書を掲載
1991	瀬戸市近世文書集1	下品野村窯屋文書のうち、加藤春夫家所蔵文書を掲載
1992	瀬戸市近世文書集3	赤津村窯屋文書のうち、赤津焼工業協同組合、加藤エイ吾氏、加藤唐三郎氏の所蔵文書を掲載
1993	瀬戸市近世文書集4	御林方関係文書のうち、加藤正男氏所蔵文書を掲載
1993	瀬戸市史陶磁史篇第四巻	「瀬戸山離散」ということばで表現される大窯の時代を、発掘調査などによる考古資料を中心に解説
1993	瀬戸市史陶磁史篇第五巻	尾張藩政下の瀬戸窯業を本業焼の視点から、古文書や民俗資料等から解説
1994	瀬戸市近世文書集5	江戸時代に編さんされた窯屋伝記のうち、加藤博氏、加藤作助氏、名古屋市鶴舞中央図書館の所蔵文書を掲載
1995	近世の瀬戸	江戸時代の瀬戸市について、支配体制、窯屋・農民の状況、祭礼などを解説
1998	瀬戸市近世文書集6	御林方奉行所役人を務めた上水野村松本茂助家所蔵文書を掲載
1998	瀬戸市史陶磁史篇第六巻	尾張藩政下における瀬戸窯の復興から磁器生産が隆盛を迎えるまで、各村々の連房式登窯で生産された陶磁器資料の集大成

2000	瀬戸市近世文書集 7	御林方奉行所役人を務めた上水野村松本茂助家所蔵文書を6巻に引き続き掲載
2001	瀬戸市民俗調査報告書 1	幡山・今村地区における聞き取り調査の結果を掲載
2002	瀬戸市民俗調査報告書 2	水野・掛川地区における聞き取り調査の結果を掲載
2003	瀬戸市史資料篇第四巻近世	江戸時代の瀬戸に関する資料を数多く収録し、併せて資料ごとに解説も付記
2003	瀬戸市民俗調査報告書 3	赤津・瀬戸地区における聞き取り調査の結果を掲載
2004	瀬戸市民俗調査報告書 4	品野地区における聞き取り調査の結果を掲載
2005	瀬戸市史資料編第三巻原始・古代・中世	原始から江戸時代初頭までの瀬戸に関する資料を収載
2006	瀬戸市史民俗編	大正時代から昭和初期の生まれの話者からの聞き取りをもとに、昭和30年代半ば以前の瀬戸の民俗について解説
2006	瀬戸市史資料編第五巻近現代 1	瀬戸市域の近現代にかかわる史料をテーマ別に収録
2007	瀬戸市史通史篇上	瀬戸の原始から江戸時代までの歴史を描く
2007	瀬戸市史資料編第六巻近現代 2	明治以降の様々な資料を年代を追って収録
2010	瀬戸市史通史篇下	廃藩置県から昭和までの歴史をまとめた第1章から第4章と近代の瀬戸窯業の歴史をまとめた第5章から構成

瀬戸市史編さんに係る基本方針（案）

1 市史編さんの目的

今回の市史編さん事業は、令和 11 年(2029)に迎える「瀬戸市制施行 100 周年記念事業」として取り組むものである。瀬戸のやきものの歴史を新たに掘り起こし、明らかにしていくことにより、市民が地域に対する理解、愛着を深め、地域への誇りを一層育んでいくことを目的としている。

瀬戸市の特徴は、「せともの」という言葉が表しているとおおり、千年以上連綿と行われてきているやきものづくりの歴史である。そのため、瀬戸市史においても、他の市町にはない、やきものの歴史のみを記述した『陶磁史篇』の発刊がされている。この『陶磁史篇』は、「上代から古代まで」、「陶窯の変遷」、「瀬戸の染付焼」、「瀬戸大窯の時代」、「瀬戸の本業焼」、「近世瀬戸焼の生産と流通」のテーマで発刊され、古代から近世までの瀬戸の陶磁史を明らかにしてきた。しかし、最初に発刊された『陶磁史篇三』は昭和 42 年の発刊であり、発刊から 56 年が経過していることと、その間の研究成果が反映されていないこと、また、瀬戸の窯業史の中で大変重要な位置付けである近代以降については、通史編での概要記述があるのみであることから、それらを補完していくため今回新たな陶磁史篇を発刊し、瀬戸の窯業史の全容を明らかにしていくものである。

2 市史編さんの基本方針

- (1) 瀬戸市史は瀬戸市の正史であることから、瀬戸市の歴史の全てを明らかにしていくことが求められている。そのため、新たな研究成果が出てきている近世末の陶磁史、そしてこれまで記述されていない近代以降の陶磁史について編さんする。
- (2) 今回の市史は『陶磁史篇』であるため、社会・経済など一般的な歴史のみではなく、陶磁器に関する専門的な知見を加えた、最新の学問的成果を盛り込みながら、学術的に高い水準を目指す。そのため、執筆については、陶磁器や瀬戸市の歴史・技術などの知識を有する専門家を中心に行うものとする。
- (3) 記述については、具体性・客観性を持ったものとする。
- (4) 実際の作品の写真や史資料の図版等を多く掲載するとともに、平易な文章で記載するなど、広く市民に親しみやすくかつ理解しやすい内容・体裁とする。
- (5) これまでの瀬戸市史編さん過程で収集された史資料も活用しながら、地域に限定せず幅広く調査し、埋もれている未発見の史資料の掘り起こしを積極的に行い、活用する。
- (6) 収集した史資料等については、基本的にデータ化を行う。これらのデータは、後に広く市民に公開し、様々な場面で活用出来るようにしていく。
- (7) 市史編さん事業への市民の関心を高めていくため、そして地域の歴史や文化の学びから瀬戸への誇りと愛着を育むため、フォーラムの開催、ホームページや広報紙での情報提供・周知などを行う。

3 市史の構成

瀬戸における陶磁史の中で、新たな研究成果が見られる江戸時代後期の染付焼開発の時代から、既刊の陶磁史篇では扱われていない明治時代以降の陶磁史を記述する。

瀬戸市史の構成は次のとおりとする。

陶磁史篇七…磁器生産の始まりと発展

陶磁史篇八…明治時代以降の瀬戸陶磁

4 市史編さんの期間及び刊行計画

(1) 市史編さんの期間

市史編さん期間は、令和5年度から『陶磁史篇八』発刊予定の令和13年度までとする。

(2) 刊行計画

	内容	令和5年度	6	7	8	9	10	11	12	13		
組織	市史編さん委員会	●									→	随時
	執筆専門委員任命	●										
	第七巻部会	●									→	
	第八巻部会	●									→	
調査	調査体制の整備	●	→									
	編さん方針の決定	●										
	調査	●									→	
刊行	第七巻						原稿×切	●				10月1日
	第八巻								原稿×切	●		
	市史だより	●									→	3月頃刊行
	業者選定・入札					●						

5 市史編さんの組織と役割

市史編さんに係る組織と役割は、次のとおりとする。

① 市史編さん委員会

学識経験者、行政関係者、市民団体等により組織され、市史編さんに係る基本方針や必要事項の決定を行う。

② 専門部会

市史編さん委員会の下部組織として刊行する巻ごとに専門部会を設け、市史編さんに係る史資料の調査・収集や整理作業を行い、市史の原稿を執筆する。詳細は別紙(案)のとおり。

③ 市史編さん事務局

地域振興部文化課に設置し、市史編さんに係る事務を行う。